

## 日本で現在操業している4製糸工場 ～碓氷製糸・宮坂製糸・松澤製糸・松岡シルク～

昭和9年(1934)に日本は世界の生糸の82%以上を生産する世界最大の生糸生産国となる。昭和初期の製糸工場の器械製糸は全国で3700工場数、約33万釜数であった。戦後、生糸の需要の減少に伴い養蚕業と製糸業は衰退をした。現在は全国で稼働している製糸工場は4工場だけとなる。

### 1. 碓氷製糸農業協同組合：群馬県安中市松井田町

協同組合は、民間の碓氷製糸の廃業に伴い町の養蚕・製糸業のために農家が出資して昭和34年に設立された組合である。国内の繭は13県から約230ト<sup>まゆ</sup>集められて、国産繭の約6割を占



めており、生糸は年間4,500kg生産されており、国内最大規模の製糸工場である。愛知県から新城市の養蚕農家の繭は碓氷製糸に送られ、伊勢神宮へ奉納の赤引の糸となっている。

### 2. 株式会社宮坂製糸所：長野県岡谷市東銀座

岡谷蚕糸博物館内に2014年8月に工場移転し、製糸操業を身近に見ることが出来る。日本古来の諏訪式座繰機、



上州座繰機、自動繰糸機の3種の繰糸方式で特徴をもった生糸を生産している。様々なニーズに応じた生糸の生産を研究開発している。

### 3. 松澤製糸所：長野県諏訪郡下諏訪町

下諏訪町に唯一残る製糸所である。自動繰糸機で高品質の生糸を日に約50kg生産している。煮繭に使う燃料は、創業以来薪(まき)を用いている。山梨県の繭が年間5000kg入荷して生糸を生産している。山梨県内に生糸として戻されて、高級絹製布団などがつくられている。

### 4. 松岡株式会社：山形県酒田市字仲町

松岡製糸所は、鶴岡の新海町に明治20年に創設した。明治5年に旧藩士が鶴岡を開墾し、松ヶ岡開墾場を興した。開墾地に桑園と蚕室が建設された。生糸の生産も始め、その後、蚕室が増設して、松岡製糸所となる。昭和23年、松ヶ岡農業協同組合に、昭和63年に現社名変更をした。松岡シルクは、高級生糸の「松岡姫」を生産。松岡姫は、細繊維、しなやかで軽やかな特徴がある。

